

踊りとは命掛けで突つ立た死体であると定義してもよいものである
 欲があるかあると欲のほうで愛を食つちやうから
 脆さは適性の妖精である
 舞踏は心易い神様や精神のガラスクマ置場を好んで踊るのであるか
 勿体ないか生きていくその事こそ舞踏そのものでないのか
 振り返つて発狂する目玉は円の半分であるか
 舞踏家は一体何の先祖なのか
 実生活の中でまよくは一流の人殺しになれるだろうか
 舞踏はからっぽの絶えざる入れ替りであるか
 死体を飼育してみたいと思ふことかあります
 人間追いつめられればからただで密談するようになる
 肉はただこのように暗いのだ
 犬に打ち負かされる人間の裸体を私は見ることができません
 わたくしを爆撃した飛行機は母親であつた
 わたくしの家の前を飢饉さんか歩いてついで
 足許に春虫く光の足音
 呼ばねたがわて
 十方巴其

Hijikata Tatsumi Natsu-no-arashi 2003-1973 Hangi-daitoh-kan



企画・監督 ● 荒井美三雄
 夏の嵐
 燔犧大踏鑑

出演/土方巽、芦川羊子、小林嵯峨、玉野黄市、和栗由紀夫、花上直人 他
 音楽/YAS-KAZ 制作/新井明美 撮影/堀美臣[2003年]、中島徹 他[1973年]
 2003年 / カラー / 71分 / デジタルベータカム(1973年撮影素材=8mm film)
 協力/土方巽記念アスベスト館、国際交流基金 配給/イメージフォーラム、荒井事務所
www.imageforum.co.jp/hijikata

2003-1973

土方巽

京都大学西部講堂における土方巽
最後の伝説的舞踏

九七三年六月

世界的ダンス・ブームにあって、特に異彩を放ち注目を集めている日本のBUTOH。一九五六年代末からの戦後日本のアヴァンギャルド・アートのムーブメントの渦中から立ち現れた舞踏、その創始者としての土方巽の名は今なお燦然たる輝きを放ち、様々な芸術ジャンルの多大な影響を与えてきました。七三年に自らの舞踏を封印した土方巽の、映像として残された最後の公演がこの「夏の嵐 燐燐大踏鑑」です。全共同運動の残り火がまだ消えやらぬ京都大学構内での伝説の舞踏は、三台の8mm filmのカメラに記録されていました。この未発表の映像が、最新のデジタル技術を駆使することにより、三〇年の時をへて、新たな映像を付け加えられ鮮やかによみがえりました。土方巽 / 暗黒舞踏の頂点の映像がいまここに展覧されます。



Hijikata Tatsumi Natsu-no-arashi 2003-1973 Hangi-daitoh-kan

夏の嵐

燐燐大踏鑑

2003-1973

二〇〇三年五月のある日、渋谷駅前の巨大な三つの街頭スクリーンに突如、反時代的な異形の人々のまがまがしい動きが写し出されました。三〇年前の京都での土方巽らの舞踏公演の映像です。

一九七三年六月、超満員の観衆の前で、舞踏の創始者である土方巽は、生涯に一度、東京以外の地で踊りました。芦川羊子、小林嵯峨、玉野幸市、和栗由紀夫ほかの今も一線で活躍する弟子たちを擁した土方巽は、自ら「少女」を踊りました。尾底骨で重心を取り両手足を宙に泳がせて冒頭から挑発的なまなざし。

女たちを中心とした場面の最初の演目「草摘みの少女」。「戦争は田の草取りよりも楽だ...」飯島耕一の詩「八月の詩」を読む若き日の土方巽の肉声に、男たちが立ちすくみ、指でささやきあい、風の糸であやつられる「盆の精霊」。公演名を「夏の嵐」と名づけた由来でしょう。

土方は二つ目の踊りに類（ハンセン病）を出しました。ひとりであることの愉悦、孤絶感、憤怒...：孤立者のあらゆる感情が凝縮した時間です。全十二景、土方舞踏世界の集大成。土方巽はこの年、最後に、舞踏手としての自らに終止符を打ったのです。最後に映し出されるのは土方巽の生まれ故郷・秋田の映像。天上に向かわれて跳躍する欧米のダンスに対して、土方巽の舞踏が地を踏み床をばう独自の身振りを生み出した舞踏の原風景でもあります。

土方巽
Hijikata Tatsumi

日本独自の舞踏の創始者。一九二八年、秋田に生まれる。四六年、一八歳の頃よりダンスを習得。四九年、大野一雄舞踊公演に衝撃を受ける。五八年、土方巽の名でヨネヤママコ、大野一雄と共演。五九年、「禁色」を大野慶人と共に発表、舞踊界に衝撃を与え、三島由紀夫、細江英公、舞龍龍彦との交流が始まる。主な舞台に「あまのこ」(一九六二)、「ハラ色ダンス」(一九六五)、「肉体の反乱」(一九六八)、「猿轡譚」(一九七二)、「夏の嵐」(一九七三)などがある。「大駱駝艦-陽物神譚(特別出演)」(一九七三)を最後に自ら踊ることはなく、四四年にアズベスト館に劇場開設、ここを拠点に構成、演出、後進の指導に当たります。細江英公による写真集「謙遜」(一九九〇)、著書に「犬の静脈に嫉妬することから」(一九七六)、「病める舞姫」(一九八三)、遺文集「美貌の青空」(一九八七)、「土方巽全集」(一九九八)などがある。一九八六年、享年五七歳で逝去。土方の影響を強く受けたとされる舞踏家、演劇人以下の人々がいまもそれぞれが日本国内で、あるいは世界各地で活躍しています。大野一雄、大野慶人、石井輝男、笠井敏、唐十郎、鹿赤兒、玉野幸市、天尻牛大、和栗由紀夫、山田一平、室伏鴻、大須賀勇、芦川羊子、小林嵯峨、田中泥。

監督◎荒井美一 雄 Arai Michio

一九三八年、東京に生まれる。東映、京都撮影所に入社。六八年、「元禄女系図」(石井輝男監督)で土方巽に出会う。六九年、監督第一作「温泉ボン引き女中」で土方巽構成・暗黒舞踏演出のショー場面を演出。以後、四本の劇場画を監督。七三年、関西で初めての土方巽自身の出演による舞踏公演を京都で実現、舞台撮影を行う。三〇年間これを封印、二〇〇三年、新たなバートを撮影して「土方巽夏の嵐」として完成させた。

企画・脚本・監督 / 荒井美一雄 出演 / 土方巽、芦川羊子、小林嵯峨、仁村綾子、桂真央、玉野幸市、佐藤順一、和栗由紀夫、雨宮一光、立花隆一、花上重人、小野澤 舞台構成・演出 / 土方巽 1973年撮影 / 中島豊、藤山一郎、江原邦二 スチール撮影 / 中島豊 2003年撮影 / 堀原良、林憲志、宮澤なな 水中撮影 / 新村安雄、金坂芳和 音楽 / YAS-KAZ トランペット演奏 / 五十嵐一生 詩 / 飯島耕一「過ぎし日の夕を思ひ」(「八月の詩」より) 朗読 / 土方巽 制作 / 新井明美 協力 / 土方巽記念アズベスト館 宣伝写真および資料協力 / 古沢雅夫、北川幸平 2003年 / カラー / 719 / デジタルベータム(1973年撮影フィルムは8mm film) www.imageforum.co.jp/tj/hijikata

2004年4月17日(土)より
伝説のレイトロードショー!
連日(4/30(金)まで) **PM.8:50**より1回上映(終10:05)
前売鑑賞券**1200円**好評発売中! 当日券 / 一般1500円、学生1300円、高・中・小・シニア1000円
★初日4/17(土)トークショー開催!! トークゲスト=大谷 煥 (「DANCE BOX」エグゼクティブ・ディレクター)

■5/18(火)・19(水) ①両日とも18:00/20:00開演(開場は開演の30分前)
DANCE BOX vol.109 [Dance Circus26] ②前売2000円/当日2200円/通し券3600円
③18日出演: Asha and dd,punch,大槻弥生,小野良子,鳴海姫子,Lolo-Lolo
④19日出演: 岡野亜紀子,岸昆虫,栗棟一恵子,そよか,藤井雅信

シネ・ヌーヴォ
地下鉄中央線「九条駅」
6番出口徒歩3分
(大阪市西区九条1-20-24)
TEL.06-6582-1416
ホームページ
<http://terra.zone.ne.jp/cinouveau/>

地下鉄中央線 一本町
九条駅
6番出口
ナベキル
九条商店街
パチンコ
オメガ
マルド
ブル
モーター
大阪ドーム

予告 **維新派2004年野外新作公演「キートン」** 作・演出 / 松本雄吉 **2004年10月 大阪・南港にて上演予定** ■お問い合わせ / 06-6763-2634 (維新派)